

分解的に世界を見る目

あなたの生活に文学を

英米文学者
阿部公彦

「文学界」7月号は、「あ、村上さんだ！」と手に取る人も多いかもしれませんが、掲載されたのはごく短い短編三つ。でも、表紙に刷られた作家名は雑誌タイトルなみの大きさで、圧倒的な存在感です。

■絶妙

この村上春樹人気はどこからくるのでしょうか。理由の一つはちょっとした「におい」だと私は思っています。「石のまへらに」は「こう始まります。」「こで語ろうとしているのは、一人の女性のことだ。とはいえ、彼女についての知識を、僕はまったくと書いてこへらに持ち合わせていない」

この「とはいえ」や「まったく」がくせ者なのです。パッと村上フリーバーが充満して、作品の全体像が浮かぶ。ここでは、対立するものがずばっと小気味

■平易

この小説、あまり「におい」がしません。おそらく個別の語へのこだわりが抑制されているせいでしょう。「愛が嫌い」と



絵・片山高志

村上 — いつもの部屋 — 町屋 — おいがない

いつタイトルもそのあたりと響き合う。

描かれているのはありふれた日常です。建築物としてのマンションへの思い。古い友人。別れたパートナーのこと。家庭の事情も出てくる。でも、そのわりにおいがない。

主人公「ひろ」はアルバイト生活で、勤務は週3回。ヒマだから、知り合いの共働き家庭のシッターなどもしています。まだ言葉をしゃべらない幼い子どもと手をしているためか、語りは独り言めく。でも、つらつらとした終わりのない呟きから、はっとするような表現が飛び出します。

ひろには付き合っていた女性がいまいました。でも、「誰いといふより根本的なお互いの病癖にふれあってしまった気がして、愛も恋もなにもないような状況になってしまって、ひたすらお互いの存在だけがそこにある」という感じ「になって別れたこと。」

すく平易な叙述。とがったところがありません。ただ、町屋さんの世界を見る目は分解的にしてしまつ。幼い子が手をにぎってへるとその感触で感情がわかるほどの主人公ですが、「愛がこわい」「正直でいることだけがどうしてもできない」というのもそのせいでしょうか。生半可なこだわりには着地しない。だからこそ、奥の方にある感情にまで手が届くのかも知れません。

■境目

「すばる」(7月号)の保坂和志さん「読書実録」夢と芸術と現実「も、手にとつてもういたい作品です。ただし、そんなにおもしろいのか？」と詰め寄られたら、「おもしろいかどうかなど、些末な問題だ！」と私は反論するかもしれません。

作品中では、フランツ・カフカやミシェル・レリス、磯崎憲一郎などの文章が引かれるのですが、引用部と地の文がゆるめると混じり合い、しかも、よそから急に声が聞こえたり、自分の声と他人の声の境目がわからなかつたりしてすく不安定。気持ちが悪い。

ところが驚くべきなのは、こんなに気持ち悪いのに、なぜかすく読めてしまうこと！ぬるっと滑っていくような読書体験です。誰にでも「どうぞ、どうぞ」とお薦めできるものではないのですが、もし「ぬるっと滑るようなものを読みたい」と思われたらためしていただきたい。

古川真人さんの「窓」(「新潮」7月号)は、目が不自由な兄と小説家志望の弟の生活を描いた作品です。九州を舞台にした一連の兄弟物の続編と言えるでしょう。ただ、兄弟の生活に終わらず、障害者施設の襲撃事件へと話が進むと、「これは何を意味するのか？」と気になる。古川さんの文章はとにかく我慢強い。回想を織り交ぜながらだんだんと外の世界から脳内へと焦点が移行していく。保坂さんのものとは違いますが、ある種の「気持ち悪さ」も出ています。こういう作品は、決して最後で「すっきり」してはいけません。いのだなと思えました。

■短信

★第2回「仙台文学賞」、来月募集開始 仙台市の出版社などでつくる実行委員会は、東日本大震災の被災地から新たな書き手を発掘することを目的とした「仙台短編文学賞」の第2回募集要項を発表した。

募集期間は7月1日～11月15日で、対象は東北地方と関連のある未発表の作品。400字詰め原稿用紙で25～35枚程度。震災発生から8年となる来年3月に大賞など受賞作を発表する。

仙台市在住の作家熊谷達也さんが選考委員を務め、大賞は「小説すばる」(集英社)などに掲載される。実行委代表で、出版社「荒蝦夷(あらいそい)」を経営する土方正志さん(55)は「第1回から1年が経過し、震災の受け止め方にどんな変化があるのかも注目したい」と話している。

問い合わせは実行委事務局、電話022(2668)0912。

★代俳句協会が作品募集、現代俳句協会が、10月に京都市内で開催される全国大会に向けて作品を募集している。投句料は3句一組で2千円。1人何組でも投句できるが、新作・未発表作品に限る。7月31日必着。応募には専用の投句用紙が必要で、協会の公式サイトからダウンロードできるほか、協会に電話連絡すれば入手できる。

協会特別顧問の宇多喜代子さん、宮坂静生さんらが選考を務め、10月27日、京都市のANAクラウンプラザホテル京都が開かれる全国大会で各賞が発表される。問い合わせは同協会、電話03(33333333)8190。